

移民と本国社会ーグローバル・サモア人世界 のアイデンティティと互酬性

山本, 真鳥 / YAMAMOTO, Matori

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

科学研究費補助金研究成果報告書

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

4

(発行年 / Year)

2011-05

様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成23年5月26日現在

機関番号：32675
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008年～2010年
 課題番号：20520716
 研究課題名(和文) 移民と本国社会—グローバル・サモア人世界のアイデンティティと互酬性
 研究課題名(英文) Migrants and Home: Identity and Reciprocity in the Global
 Samoan World
 研究代表者
 山本 真鳥 (YAMAMOTO, Matori)
 法政大学・経済学部・教授
 研究者番号：20174815

研究成果の概要(和文)：サモア諸島出身者は、主として環太平洋の諸都市に移民してコミュニティを形成し、今では本国の人口をしのぐほどとなっている。彼らが慣習によって本国の内外で盛んに行う儀礼交換は、互酬性を通じて本国へ現金を送り出す仕掛けとなっており、海外サモア人にとっては大きな負担であるが、サモア人のアイデンティティの徴としてきわめて重要になっているために、なかなか参加がやめられない。一方で、移民アーティストたちはそれに批判的で、参加していない者が多いが、それは彼らが儀礼交換に頼らずともアートにより自らのアイデンティティを作り出すことができるからである。

研究成果の概要(英文)：Samoa overseas migrants form their own communities mainly in the circum-Pacific cities and their total population outnumbers now the Samoan one at home. Their customary ceremonial exchange based on the principle of reciprocity which is still held often in overseas and at home as well causes cash flows from overseas to home, while the participation to ceremonial exchange has come to be a sign of identity and the ceremonies are burden to many of the migrants. On the other hand, migrant artists are critical to the ceremonial exchange and they are trying to create their own identity by their art instead of participating ceremonial exchange.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：文化人類学

科研費の分科・細目：文化人類学・文化人類学・民俗学

キーワード：移民、アイデンティティ、トランスナショナリズム、互酬性、
 グローバリゼーション、芸術、サモア、ニュージーランド

1. 研究開始当初の背景

(1) サモア独立国の人口は約17万人であり、隣のアメリカ領サモアと併せてサモア諸島の住民は23万人ほどである。主として環太平洋の都市部に移住しているサモア人は、そ

れとほぼ同数かそれ以上に上ると考えられる。

(2) 従来移民は次第に本国から新しい土地へとアイデンティティを移していき、徐々に新しい土地への帰属を深めるものと考えら

れてきた。ディアスポラとは、遠くに移住を余儀なくされた人々が、本国社会を渴望しつつ、次第に根を失っていく祖国喪失の悲しい物語だった。しかしそれによって同時に、新しい社会の中でアイデンティティを確保していくという側面も同時に存在していた。

(3) もちろんサモア人は、新しい土地になじんでそこでの暮らしの足固めもしているのではあるが、本国との間を頻繁に行き来したり、儀礼交換を行ったり、親族との電話やメール等で対話や情報交換を繰り返す。近年のコミュニケーション技術の革新によって、本国の人々との緊密な関係を維持することが可能になっている。そうして、そこに国境を越えた(トランスナショナルな)サモア的ネットワークを作り出している。こうして成立しているサモア的空間をサモア人世界と呼ぶことにする。

2. 研究の目的

(1) サモア人世界の中でのアイデンティティがどのように形成されているかを明らかにしたい。

(2) そのひとつは、トランスナショナルなネットワークを作り出す、儀礼交換の研究である。儀礼交換は、ファイン・マツト(細編みゴザ)という儀礼財とその他の財を組み合わせで行われるものであるが、それが海外移民が増えるとともに、海外でも儀礼交換が行われるようになり、しかも儀礼財の数量などはエスカレートし、それとともに儀礼財であるファイン・マツトの質の低下が目立つようになってきた。この儀礼交換への参加がサモア人世界ではアイデンティティと密接につながっていることは既に議論したことがある。この儀礼交換を巡っては、サモア独立国政府が、文化財保護政策を打ち出すとともに、過度な儀礼交換を慎むよう人々に訴えているが、実際の儀礼交換の観察を行うとともに、政府など政策立案者側の考え、それらの政策に対する国内の人々、海外の移民(複数箇所)それぞれの反応を見極めたい。

(3) グローバル・サモア人世界の中での、文化的リーダーとしての海外サモア人のアーティストの動向を見極めたい。多くのアーティストは、文化資源としてのサモア的アートの様式を引き継いでアーティストとなっている者が多く、「サモア人の」アーティストであることがアートの形や素材、題材、イメージ、等々を決めているが、一方で、サモア人であることを名乗らないアーティストもいる。それらのアーティストとアートのかたちに関するディスカッションを行い、彼ら自身のアイデンティティのあり方を理解した

い。また、彼ら自身が、一般のサモア人にとってのアイデンティティの実現である儀礼交換にどの程度関与しているのかも知りたい。

(4) こうして、サモア人世界の中でのアイデンティティの多様性を考察して、それらが経済活動と絡むとき、だれがどのようなヘゲモニーを握り、文化資源にコミットしているのかを考察する。

3. 研究の方法

(1) 人類学的方法をとるので、基本的には現地へ出向いての観察とインタビューで行う。実際の行事や生活世界の有様の観察を行って、人々と会話を繰り返し、モデル構築をより精緻なものとする。

(2) オークランド(ニュージーランド)のサモア人コミュニティ、ハワイのサモア人コミュニティ、アメリカ領サモア、サモア独立国と4箇所のサイトで観察とインタビューを行った。

(3) それらをバックアップする形で、文献調査を行った。出版された図書、雑誌論文などで、自分の観察やインタビューでは知ることのできなかつた情報を得た。

(4) さらに、DVDなどで実際に行われた儀礼交換の事例観察を行った。

4. 研究成果

(1) サモア独立国政府は、過去の文化遺産であるファイン・マツトの製作の重要性に着目するようになった。ファイン・マツトは女性が作るものとされている。現在行われていない、精緻なマツトの製作を奨励し、ワークショップなどを行い技術を伝授するようになった。村の婦人会などは、この政府の動きを女性の仕事の社会的認知ととらえ、婦人会の活動としての良質ファイン・マツトの生産を活発に行うようになってきた。同時に、政府はこれが従来無償の仕事であったのに対し、女性の所得増進機会として役立てるべく促進を図っている。

さらに、儀礼交換に際して、大量の粗悪品のファイン・マツトを送るのをやめるよう国民に働きかけもし、禁止を宣言している。大量の粗悪品を贈るのは、サモアの古来の習慣ではなく、良質のファイン・マツトを1枚だけ贈るのがサモアの文化であることを強調するようになった。またサモア独立国内ばかりでなく、サモア独立国出身の移民の多いニュージーランド・オークランド市に使節団を派遣して、移民にとって現金を失うことの多い儀礼交換をやめさせるべく儀礼交換縮小運動を広めようとしている。

(2) 国内外において、首相の政策を英断であるとたたえる人が多い。政府の政策決定があったから、華美な儀礼交換は行わなくて済むようになったという。しかし、文化復興事業で奨励されているような見事なファイン・マットが贈られるところはあまり見られず、代わりに、従来の粗悪品と同じ品質であるがサイズだけ特大（何倍もの大きさ）のファイン・マットが使われるようになった。一方、ニュージーランド・オークランド市では、粗悪品のファイン・マットはほとんど使われなくなっているが、同様に良質マットの代わりに特大マットが使われる傾向は変わらない。筆者が観察したのは、サモア独立国から来た、教会の資金集めの活動をしている若者グループであるが、彼らが持参したファイン・マットの対価として、大変な金額の現金が渡された。また、老人のマタイが亡くなった葬儀に、姻族たちは特大サイズのファイン・マットを持ってきていた。

以前より下火であるとはいえ、移民たちにとって、やっぱり負担は大きいはずである。

(3) アメリカ領サモアでは、政府がそのような規制方針をもっていないため、儀礼交換は他の場所と比べて一段と大量に行われている。15年前の調査でもここが儀礼交換の規模が一番大きいのであったが、その勢いは相当である。しかし、現地の人に言わせると、儀礼交換の規模は景気に左右されるので、2009年現在（リーマンショック後）は前より少ないとのことである。アメリカ領サモア政府内部でもサモア独立国と同様の規制を行った方がいいのではないかという意見もでており、議論が開始されていた。アメリカ領サモアには、アメリカ領サモア人とサモア独立国出身者とがおり、後者の方がおそらく実数は多い。ここでもファイン・マット復興運動があるが、その担い手は独立国出身者である。復興運動といっても、独立国側の認識では粗悪ファイン・マットに類するものを、みなで集まって、おしゃべりしたり歌を歌ったりしながら作るのである。アメリカ領サモアの女性はもはや粗悪品も含めファイン・マットを作ることができないので、ファイン・マットの製作も復興も、またそれによって対価を得るのも、独立国ないしアメリカ領サモアにいる独立国出身の女性たちである。

アメリカ領サモアからの移民と独立国の移民が半々のハワイでは、独立国出身者に訊くとファイン・マットのルールは本国と同じように、粗悪のマットを使うのをやめているとのことであるが、アメリカ領サモア人は使っているという回答であった。コミュニティによって使い分けをしており、つきあいがコミュニティの境界を越えるときは、折衷策で

折り合いをつけているのであろう。

しかし、ハワイでの事例は観察できなかったので、確認はしていない。

(4) さて、アーティストのアイデンティティ意識を調べようと考えたのは、彼らが概ね儀礼交換を嫌っているからであるが、同様にアーティストは、自分たちのアイデンティティについておおいに考え、熱く語っているからである。どう見ても「サモア人らしくない」風采をもち、「らしくない」行動様式の人々であるが、彼らなりに「サモア人とは何か」を考えている。彼らはその創作活動の中で、常に芸術とは何か、人生とは何か、サモア人であるとはどういうことか、というアイデンティティの問題と向き合っている。芸術という自分の究極の課題があるために、儀礼交換には批判的な場合が多く、サモア人が誇りとする首長制にはあまり興味をもたない。その意味では本国中心のアイデンティティ意識からは無縁であるといえるだろう。このように、移民のアイデンティティといっても、さまざまな見解があり、さまざまな意識レベルがあることを明らかにすることができた。新しいサモア人像、サモア人のアイデンティティの想像力は彼らの手に握られているといえる。

なお、専門のアーティストが育つ基盤は（独立国サモアもアメリカ領サモアも含め）本国社会ではまだ弱い。ニュージーランドではある程度の芸術市場が存在するばかりでなく、政府の用意した補助金が各種あり、多くの移民芸術家が育ちつつある。それは、アメリカ合衆国の現状とも対象的である。アメリカ合衆国で育つサモア人芸術家は数が少なく、彼らはほとんど「サモア人とは」といったエスニック・アイデンティティの問題に向き合っていない。

同様に、オークランドでは高校の教育課程においても多文化教育の一環として、サモア・クラブを作り課外活動を行うことが奨励されている。そこでサモア人生徒は歌・ダンス・演説（サモア語スピーチ）・儀礼などを学び、文化の継承を行っていく。ただしそのような形でのエスニック・アイデンティティの強化を行う限りは、本国の影響を常に受け続けるのであろう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

①山本真島「太平洋諸島移民の身体と芸術のかたち」床呂郁哉・河合香吏編『「もの」の人類学』（2011）pp.263-269.京都大学学術出

版会 査読有

② Matori Yamamoto 'Nationalism in microstates: Realpolitik in the two Samoas.' "The Hosei University Economic Review" (2011) 78(3): 283-299. 査読無

③ 山本真鳥「サモア独立国の政治と選挙制度—保守と革新の間」熊谷圭知・片山一道編『オセアニア』朝倉世界地理講座 15、2010、pp.302-316. 査読有

④ Matori Yamamoto 'Migration and tourism development in Samoa.' "People and Culture in Oceania" (2008) 24: 51-66. 査読無

[学会発表] (計 3 件)

① 山本真鳥「ニュージーランド在住太平洋諸島出身アーティストのアート活動」日本オセアニア学会大 27 回研究大会、2010 年 3 月 17 日、名鉄犬山ホテル。

② K. Okamoto, T. Ito and M. Yamamoto 'Multiculturalism in a globalizing world: views from Japan.' Association of Asian Social Science Councils 18th Biannual General Conference, August 27, 2009, Bangkok, Thailand.

③ Matori Yamamoto 'Nationalism in Microstates: in the Case of Real-politics of two Samoas.' The 16th International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences, July 27, 2009, Kunming, China.

[その他]

ホームページ :

論文③

<http://rose.lib.hosei.ac.jp/dspace/bits/tream/10114/6257/1/78-3yamamoto.pdf>

(法政大学機関リポジトリ)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山本 真鳥 (YAMAMOTO, Matori)

法政大学・経済学部・教授

研究者番号 : 20174815

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし